阪田知樹さん応援レポート 阪田知樹 オール・スクリャービン・リサイタル 2015年11月20日(金) 汐留ベヒシュタイン・サロン

スクリャービン没後100周年を記念して



東京・汐留イタリア街。高層ビルにクリスマス・シーズンに向けたイルミネーションがよく映える。

器楽部門奨学生・阪田知樹さんのソロリサイタル、 「阪田知樹 オール・スクリャービン・リサイタル」。

今年はスクリャービンの没後100年にあたる年、また、スクリャービンは阪田さんが「大好きというか、 大事に思っている作曲家のひとりです」と様々な場面で語っている作曲家。

ロシアの作曲家であるスクリャービンは、ショパンにあこがれ、43年という短い生涯のほとんどをピアノ音楽に捧げたと言われている。

本日のリサイタルは、プログラムすべてがスクリャービンという興味深い構成。数々の名作のうちから、阪田さんが練りに練ったプログラムが披露されるもよう。

ピアノは、ベヒシュタイン。リサイタルの際、スクリャービンが愛用したといわれるピアノである。

客席はすでに満席。

学校を早退されてこられた方や、新幹線で駆け付けたファンの方も。

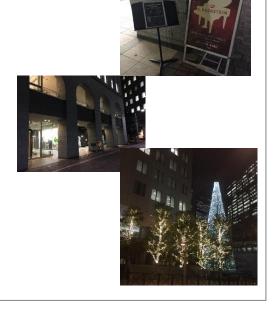
阪田さんのFacebookページには、 スクリャービン三昧の練習日の様子や、

『・・スクリャービンは、歳を経る事に作風を大きく変え・・、 11月20日の演奏会は、作風の変遷を辿れるプログラムを 予定しております(^^)』等のコメントが。

当日には『・・・今日は、いよいよこちらの演奏会!どっぷり「スクリャービン風呂?!」の日です(^^)』と、茶目っ気たっぷりの投稿も。

配布されたプログラムには

『作品ごと、それぞれ同一人物から生まれたとは思えないほど、異質に感じるかもしれないが、それはスクリャービンという多面体的な作曲家ならではの魅力であり、彼の彼たる所以といえよう。前半には初期のロマンティックな音楽、後半は現実と夢とを自由に駆け巡る中期の作品と神秘的な輝きを見せる後期作品を配した今夜のプログラム、彼の軌跡をたどることが出来たらと願う』との阪田さんが寄せた言葉が。



敬愛する作曲家、その軌跡をたどる構成で



演奏会が始まる。 阪田さん、本日は黒ずくめで登場。 少し前からメガネをコンタクトにチェンジして、 ぐっとイメージチェンジである。

1曲目「幻想曲」。『ラフマニノフ風な曲であり、ロシアの壮大な大地を思い起こさせる』曲。

2曲目「9つのマズルカ」より3曲。『ショパンのそれ へのオマージュとも聞こえる曲』とのこと。

詩曲2曲の演奏ののち、「ピアノ・ソナタ第4番」で前 半終了。





後半は「ピアノ・ソナタ第8番」から。 スクリャービンが残した全10曲のピアノ・ソナタ のうち、最後の完成となったのが、この8番。 阪田さんが本日のプログラムの「核」と位置付 けた難曲であり、『怪しげさを追求していくかの ような雰囲気』がある。プログラムには『東洋的 神秘のヴェールをまとう曲』との説明が。

詩曲、練習曲、「儚さ」「アルバムの綴り」の演奏ののち、ラストの曲「ピアノ・ソナタ第5番」。 『大胆さとナイーブさが渾然一体となった曲』を、とてもゆたかに弾きあげてくれた。 (楽曲紹介』』内は、プログラムに寄せた阪田さんのコメント等から引用)。

あえてトークをはさまず、演奏のみで繋いでいった2時間半。シンプルにクリアに響く音色が耳に残った。

聴衆の皆様を圧倒する演奏に、みなさん大満 足。拍手がやまない。 アンコールには、「マズルカ」の作品と、練習曲

アンコールには、「マズルカ」の作品と、練習曲「悲愴」で応えてくれた。

このリサイタルに向けての練習の日々は猪突猛進だったと阪田さん。充実感あふれる笑顔に、それまでの準備の時間がしのばれる。

知的に色彩豊かに。作曲家の人生を奏でる



終演後のホール、

「ぞくぞくしました!」
「興奮したわ~」
「ソナタ8番、素晴らしかった。スクリャー
ビンの美学と人生感を感じました」
「この企画をぜひまた」
「スクリャービン全集を出してほしい!」
と絶賛の声が上がっていた。

〈プログラム〉 スクリャービン 幻想曲 ロ短調 作品28 9つのマズルカ作品25より 第3曲ホ短調 第2曲ハ長調 第9曲変ホ長調

2つの詩曲 作品32 第2曲二長調 第1曲嬰ヘ長調

ピアノ・ソナタ 第4番 嬰ヘ長調 作品30 ピアノ・ソナタ 第8番 作品66

詩曲 作品59-1

3つの練習曲 作品65

第1曲アレグロ・ファンタスティコ 第2曲アレグレット

第3曲モルト・ヴィヴァーチェ

儚さ 作品51-1

アルバムの綴り 作品45-1 ピアノ・ソナタ第5番 作品53

<アンコール曲> スクリャービン マズルカ作品40-2 練習曲「悲愴」作品8-12

使用ピアノ: ベヒシュタイン



終演後の阪田さんに話を聞いた:

-この珍しい企画について:

「・・・没後100年という記念の年ということもありましたし、 好きというか大事にしている作曲家なので、・・・それだ けにフォーカスしてみたいと思ってチャレンジしました」

「・・・スクリャービンは名作が多いのですが、せっかく弾くのだから、個人的にすごく好きな8番のソナタへの挑戦が一つの核でした」

「・・・8番ソナタは、どなたにでもわかりやすい曲というわけではないので、若い時代の作品も織り交ぜつつ、1回のリサイタルで、聴き手の方々がスクリャービンをどう感じられるか…ということを頭に入れながら構成を考えました」

「・・・いわば音絵巻物のような。そこから始まって、どうなっていくか…スクリャービンの人生を皆さんに共有してもらえたなら嬉しいです」

終演後のロビーで、「阪田さんのスクリャービンは『知的で色彩豊かだ』と、つぶやいていた人がいた。 皆さんに十分に伝わったものと思われる。

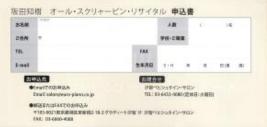
こうした「オール〇〇リサイタルは、実は阪田さんにとって4回目の企画。これまでに演奏されたのは、リスト、ショパン、ベートーヴェン。次は何を聴かせてくれるのか楽しみだ。

次の演奏会にそなえ、翌日は山梨入りの阪田さん。その後、留学先のドイツに戻るなど、多忙な日々が続く。

阪田さん、素敵な演奏でした。 また聴かせてください!

【コンサート・フライヤー(表・裏)】







【コンサート・パンフレット】



na) というエシアの交換機能が作した「ピアノに向かう」 "Annia ハスウダルフォヴァ バルル

キュビズムの影響を受けたこのを展録、姿色の概を変えビアルスト、そして、違いピアノが特色的です。 6年30という文字の様か、ALOGのシア語でASHCはしたいう文字もは受けられます。

エクリャーピンの曲折りのペーエとなるもののひとつに、すり開発に批が見える(無量化と)・2 他力があった といわれています。 命と世界には2番目をもつという点で開催があるとも対えますし、金番台に出れると何らかのイメージを終 つかはなくさんいのっしゃるでしょう。 とと上げ、の場合にデイフで展開した時人、作業がであるショーパットものものはないを発展でいって、一部単社 開催に「機関し、その第一条機能、可用を収定での機能」を理解がイエンセチ、 今日間かきたるものからにもの用着た針で自然いくつかありますが、エクティーピンの能会、この日には 「親」を、「単」は小を想見となるです。

べどう。タインのピアノはクリアでや着のよい音が特別で、台目途を発信しやすい意図といえます。 それは、型や取込の名は、3種の実践の他な、そしてまたされた機能が上来があるのですが、いちゃらな音 必要する一ても、あして最かで、単の話よいく様になっまではなきのがある機でことができる意識ーステリ・ 一といばおそらくそのことを全事が終めて機能でがかっていたのでしょう。 マスタののスタリャーとい記念機能能に、スタシャービ・が関係したベビンスタインのピアノボいるも振行 されています。

スクミャーピンの選い値(で生の表現、資本者のイヤジネーションとクタコックによって、無限の教育への選 の関われます。

do C. BECHSTEIN スクリャーピン没後100周年記念

CLANDO

阪田知樹 オール・スクリャーピン・リサイタル

汐留ベヒシュタイン・サロン

2015年11月20日(金) 18:30 開場 19:00 開演

オール・スクテャービン・リサイタル "Hommage à Scriabine"

今年投資 nopeを選えるV連のロシア人作曲家、アレクサンドル・スクリャーセンcommous。 の能という知い生物ながらその理念などをピアノ存実に費やし、数々の名を全体が出した。したし、 着くには当たらない。名き日の後のアイドル、フレデリック・ショハシ maximust、その生涯の全 てをピアノ曲に掛けているのだから一

ラフマニノブ協なロシアの私人な人地を思い出こさせる(印書前)、ショバンのそうへのオマー ジュとも明こえる「マスルカ」、大阪さとサイーヴェが深然一体となった「ピアフ・ソナタ第9 表」そして、核の食したビデナ・フテオキ×曲のうら前状に完成した東川利井後のヴェートをまと う「ピアノ・リナタ県・香」

WAR ENGIN - LEGGT ENGINEERS ON MICHOGOGICAGOS, CHIEX タティーピンという多面体的な作曲形ならてはの能力であり、他の個ならら以上対点よう 選手には物域のロマンティックな音楽、発手は疾覚と夢とを自由に取り戻る中間の表話と神秘的な 即さを見せる技術作品を配した今夜のプログラム、他の検診を辿ることが出来たら上願う。

· 幻想曲中短調作品24

、9つのマズルカ作品25より 第油水短割 第9由 亚水短周 9 Metarija Op.25 No.2 at majour No. 9 rei biosof minuse

2つの詩曲作品が2 第7曲型へ長調 Z Oblass Op.32 No.1 fe diese majeur

ゼアノ・ソナタ第4番型へ長調作品10 Piano Sonate No. 4 fe ditie majour Op.30

。ピアノ・ソナタ第8番作品66

詩曲作品9-1

3つの練習曲作品が 第/曲アレグロ・ファンタスティコ 第/曲アレグレット 第3歳モルト・ヴィヴァーチェ

3 Etudis Opi65 No.1 Allegro fastanteo Ne. J Mello moor

停さ作品がよ Progelite Op.57-1

アルバムの繰り作品のよ Tevallet d'album Op. 15-1

ピアノ・ソナタ第5番作品の Pieno Sonate No.5 Op.53

